

授業や部活 積極的に

市内公立4高 1カ月半ぶり再開

新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休校が続いていた県内の公立高校が1日、一斉に授業を再開した。市内の4高でも生徒が約1カ月半ぶりに登校。再スタート初日から授業や部活動に積極的に取り組んだ。(内田貴大)



玉野高では、全校430人が自宅で検温をしてから登校。最初に各クラスでホームルームがあり、1年3組では担任の松浦一教諭が「スタートは遅れたけれど、これから一緒に頑張ろう」と呼び掛け、本格的な高校生活に踏み出す36人の生徒を激励した。

2時限目からは通常の時間割が始まり、同組の数学では休校中の課題を復習。生徒たちは勉強の遅れを取り戻そうと、真剣な表情で解説を聞いていた。鈴木優太朗さん(15)は「今まで予習しか

約1カ月半ぶりの授業で真剣に教員の解説を聞く玉野高の1年生

「やっと始まる」着用徹底 マスク消毒

できなかったので不安はあるが、やっと高校生活が始まる感じ。思い切り部活に打ち込みたい」と話した。生徒はマスクを着用し、アルコールでの手指の消毒を徹底。今週は授業を5分短縮し、下校時間を早める。

この日は部活動もスタート。多田一也校長は「感染対策とともに、気温が上がっているので急激な活動で熱中症にならないように注意が必要。徐々に授業のペースを戻していきたい」としている。

市内の4高は4月7、8日に新学期が始業したが、新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大したことを受け、同月20日から臨時休校。各校とも課題を出したほか、オンラインでの授業やホームルームを取り入れ、自宅待機する生徒をケアした。各校ともしばらくは短縮授業や分散登校を取り入れる。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。